

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	きょういくえんげきけんきゅうきょうかい		団体ウェブサイトURL
	公益社団法人 教育演劇研究協会		https://www.gekidan-tanpopo.com/
代表者職・氏名	代表理事 森下 文雄		
制作団体所在地	〒 435-0015	最寄り駅(バス停)	浜松駅(子安町)
	静岡県浜松市東区子安町323-3		
電話番号	053-461-5395		
ふりがな 公演団体名	げきだんたんぽぽ		団体ウェブサイトURL
	劇団たんぽぽ		https://www.gekidan-tanpopo.com/
代表者職・氏名	代表 村岡 由美子		
公演団体所在地	〒 435-0015	最寄り駅(バス停)	浜松駅(子安町)
	静岡県浜松市東区子安町323-3		
制作団体 設立年月	1955年2月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 森下文雄 副代表理事 上保節子 他 理事13名、監事2名	(1) 団体構成員 個人正会員40人(うち劇団員30人) 個人賛助会員70人(うち法人会員5法人) (2) 加入の条件 法人の目的に賛同し、理事会の承認を得た者	
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	松下哲子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	森田美代子(経理) 鈴木登(監査)

<p>制作団体沿革</p>	<p>1945年 長野県篠ノ井町(現長野市)で小百合葉子主宰の児童劇団たんぼぼを発足。 1950年 長野県松本市へ拠点を移し、公演は、東京、静岡、岐阜、神奈川へと広がる。 1953年 活動の拠点を静岡県浜松市へと移す。 1955年 文部省(当時)から児童劇団として初めて公益法人格が許可され社団法人教育演劇研究協会を設立。 1963年 復帰前の沖縄公演に出発。沖縄全域120日209公演実施。 1966年 北海道に事務所を新設。 1972年 長野県に事務所を新設。 1986年 沖縄県に事務所を新設。 2012年 内閣府より公益社団法人の認定を受け、公益社団法人教育演劇研究協会に移行</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>劇団創立以来、公演回数は、延べ44,000回以上を実施。その公演のうちほとんど(約8割)が、学校体育館での公演である。 その公演活動範囲は、北海道から沖縄に及び、学校規模も児童数1,000人以上の学校から10人に満たない小規模学校まで、様々行っている。 年間公演回数は約350公演。 「おはなしレストラン」は、49日67公演を実施。</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成21年 静岡県文化振興プラン事業「長い長い郵便屋さんの話」 藤枝特別支援学校、静岡南部特別支援学校等8会場11公演(21校) 延べ2,553人 平成22年 諫早特別支援学校「100万回生きたねこ」 島原特別支援学校「100万回生きたねこ」 沼津特別支援学校「100万回生きたねこ」 袋井特別支援学校「ふしぎの森のヤーヤー」 平成23年 岡崎養護学校「ふしぎの森のヤーヤー」 平成24年 袋井市特別支援学校「ズッコケ妖怪大図鑑」 平成30年 北海道釧路鶴野支援学校「グリックの冒険」 令和2年 岡崎養護学校「おはなしレストラン」 令和3年 協和特別支援学校「おはなしレストラン」 旭川養護学校「おはなしレストラン」 白糠養護学校「おはなしレストラン」 令和4年 長崎県内特別支援学校 4校 「100万回生きたねこ」</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/XBwT_R_CeIU</p>		
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p></p>	
<p></p>	<p>PW:</p>	<p></p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団たんぽぽ】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生			
企画名	メニューは、お話「おはなしレストラン」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>本公演演目『おはなしレストラン』</p> <p>原作/ブレーメンの音楽隊・おおきなかぶ 脚本/宮田恵紀子 演出/村岡由美子 音楽/村岡由美子 衣装・美術/柿平衣名美 照明/真野亮文 制作/上保節子</p> <p style="text-align: right;">公演時間 60 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<p>「ブレーメンの音楽隊」と「おおきなかぶ」を組み合わせ、『おはなしレストラン』として上演します。</p> <p>【あらすじ】 ある時、ふと、あらわれる、不思議なレストラン。このレストランでお出しするのは、食べ物のお料理ではありません。お客様にピッタリのお話をご用意する、その名も「おはなしレストラン」 ある日、使い込まれたランドセルを背負った男の子がやってきました。「このランドセルがピカピカだったころ、ボクは何でもできるような気がしていた。でも・・・。」ふうーっと、ため息をついたその時に、レストランはあらわれる。 「いらっしやいませ。おはなしレストランへようこそ。君にピッタリの、今日のメニューは、これ！」さて、扉をあけたその先で、男の子を待っていたお話は・・・。男の子が、お話の中を旅し、何を感じたでしょう。それは、観てのお楽しみ。</p> <p>誰もが知っている「ブレーメンの音楽隊」と「おおきなかぶ」のお話を、客席とコミュニケーションを取りながら演じ、演劇を身近に感じてもらえる作りとなっています。</p>			
演目選択理由	<p>教科書や絵本でなじみのあるこのお話が、劇になって立体的に表現されると、こんな舞台になるんだということを強く感じられる演目です。そのお話の中に参加して、役者と、子どもたちが一体となって、劇を作り上げるという体験をするのに最適な作品であると思い、選択いたしました。</p> <p>低学年には、単純に、「おはなし」を楽しんでもらい、高学年には、取り柄がないために、夢を持って悩んでいる主人公の少年を通して、物語全体を、違った角度で見ることが出来る作品です。</p> <p>さらに、公演当日にワークショップを行うことで、子どもたちの期待と興味を惹きつけたまま、鑑賞、参加体験できることが大きな魅力です。1年生から6年生まで、ほとんどの子どもたちが、耳にしたことのあるお話に、学年を超えて、異年齢で参加することで、お互いを意識した相乗効果が生まれると考えています。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>①「おおきなかぶ」のかぶを抜くシーンで参加してもらいます。異年齢同士がつながれるよう工夫し、単なる遊びにならないよう、出演者も一緒になって、お芝居の中に参加してもらいます。舞台上へ参加しない子どもたちは、客席から掛け声で応援する形で参加します。</p> <p>②「ブレーメンの音楽隊」劇中歌と一緒に歌って、劇に参加してもらいます。歌の途中にある掛け声で、ブレーメンへ向かう登場人物たちを応援したりもします。</p> <p>③学校側の希望があれば、舞台設営や片付の見学も可能です。終演後に質問コーナーを設けたり、バックステージツアーを行うなどして、出演者たちとの交流を図ります。</p>			
出演者	村岡由美子/柿平衣名美/金原綾香/浅野由紀/伊東雅貴（予定）			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 5 名 スタッフ: 1 名 合計: 6 名	運搬	積載量: 0.1 t 車長: 6 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時00分	仕込み 8時～10時30分 WS 10時30分～11時30分	13時～14時	0分	14時～15時30分	15時30分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	10日				
	11月	12月	1月	計	40日	
		10日	10日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	300
		鑑賞人数目安	300



(写真1)



(写真2)

(写真1、写真2)

体育館フロアに舞台を設置した状態。舞台設置に必要なスペース (横幅10M×奥行6.5M程度)
上記写真は、コロナ対策のため、客席との間に、パーティションを設置しているため、奥行スペースを通常より取っている形になります。



(写真3)



(写真4)

(写真3、写真4)

体育館舞台上を使用した場合。舞台設置に必要なスペース (横幅8M×奥行4M程度)



(写真5)



(写真6)

(写真5、写真6) 「おはなしレストラン」上演の様子

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

【公演団体名 劇団たんぽぽ】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	300名
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>ワークショップは、公演日と同日の1時間を想定しています。 基本的には、共演・参加のためのワークショップを行います。</p> <p>全校生徒での参加も可能ですが、参加人数、時間、ワークショップ内容などは、学校側の実態に合わせて、話し合いで決めます。</p> <p>【事前準備】 あらかじめ、作品の劇中音楽CDと楽譜を学校に郵送し、休み時間や、給食の時間を利用して、メロディーの周知をしていただきます。</p> <p>【ワークショップ当日(公演前)】</p> <p>①発声と体を使った表現遊び 発声指導は、相手に届く声、伝える言葉、ということに重点を置き、指導します。 体を使った表現遊びは、想像力を使って、自由に表現する楽しさを体験してもらいます。 劇中の「大きなかぶ」へ参加することを想定して行いますが、本番まで参加のことは、伏せておきます。 体で、動物や物を表現したり、グループで一つのお題を表現したり、体でリズムを奏でたり、体を大きく使った表現を出演者と一緒に体験します。</p> <p>②劇中歌の練習 事前に送っていただいた音楽を、参加場面に合わせて練習します。 「プレーメンの音楽隊」の中で使われる、プレーメンへ行くまでの道行きの歌です。途中で、登場人物たちに向け声をかける場面があります。子どもたちが自由に考えたフレーズで、登場人物たちに声をかけてもらう練習をし、本番に参加してもらいます。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>公演日当日のワークショップを設定することで、実際に参加する場面のイメージが付きやすく、公演に対する期待を高める意図があります。さらに、異年齢で表現遊びをすることで、高学年の、表現することへの恥ずかしさや抵抗を低減させ、コミュニケーションを図りやすくするねらいがあります。 また、ワークショップは、出演者が、指導者となり、一緒に行くため、演じているときと、演じていない時の違いを感じてもらうことができ、より公演や演劇に興味を持って取り組むことができると考えます。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>ワークショップは、基本的には、体育館で行います。 内容について、学校側のニーズに合わせ、柔軟に対応していきます。</p>		

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

劇団たんぽぽ

】

i) 離島・へき地等における公演実績

小規模小学校(児童数10名未満～250名)での公演は、小規模小学校巡回公演として、平成元年以降でも年間平均で約100公演行っている。その中には、離島、へき地公演も含まれている。

これまでのへき地地域公演としては、静岡県、愛知県、長野県、山梨県、北海道、沖縄県を中心に、長崎県や鹿児島県などの九州地方での小学校公演を例年実施している。

離島での実施は、長崎県壱岐島・長崎県五島列島(小値賀町)・沖縄県久米島・宮古島・石垣島・伊江島・伊是名村・北海道奥尻島・静岡県熱海市初島、など。

・へき地公演実績(一部)

静岡市立清水西河内小学校、富士宮市立人穴小学校、森町立三倉小学校等(静岡県)

早川町立早川南小学校、早川町立早川北小学校(山梨県)

久米島町立清水小学校、久米島町立仲里小学校

石垣市立石垣小学校、石垣市立平間小学校

宮古島市立東小学校、宮古島市立下地小学校

伊江村立伊江小学校 等(沖縄県)

令和3年度、4年度 本事業による巡回採択校

ii) 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫

【質を保つための工夫】

この作品は、小規模地域での実施を想定し、作られた作品であるため、通常の公演と変わらない形の上演が可能です。舞台セットをシンプルにし、幅広い年代の出演者で、作品に奥行を出しています。特に、参加型公演としては、どんな状況にも対応できる経験豊富な役者が出演し、ワークショップにも対応できることから、特に小規模な学校においては、濃く関わることができると考えています。

iii) C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫

ワークショップと本公演を同時開催することができるため、派遣費を削減することができます。また、道具運搬車両が、トラックではなく、バンタイプの乗用車に対応できるため、運搬費の削減にもつながります。

C区分で事業を実施するに当たっての工夫